

34年度上期外貨予算編成上の問題点

通予-34-2
34. 3. 19
通商局予算課

I. 34年度と前外貨予算編成に当たって考慮すべき主要問題

1. 鉄工業生産

鋼材、鉄製品、石油製品等主要物資の製品在庫調整の

進展に就き、鉄工業生産は下期特に11月以降上昇に
転じている。この傾向に即応してこれ等製品の価格も
上期までの下落傾向より反転し上昇に転じている。
34年度上期においても在庫調整の終了を背景とし、
消費の堅調、投資の予想以上の増大(別紙参照)鉄
工業生産はひきつゞき上昇するものとみられ、年度
間を通じ33年比各10%程度の上昇を示すものと
みられる。(別紙参照)

2. 原材料在庫

33年下期外貨予算編成時には、9月末におけ
る豊富な原材料在庫を背景とし、下期中大巾な原材
料の在庫調整が行われるものと考えたが、その後におけ
る予想以上の生産上昇(33/32 6.1% → 11%)により、